

## 令和4年度岐南町・笠松町総合教育会議 議事要旨

令和4年5月24日(火)午前10時30分から、岐南町中央公民館 学習室で開催した。  
その要旨は次のとおりである。

### 1 出席者

岐南町長	小島 英雄	笠松町長	古田 聖人
教育長	野原 弘康		
教育委員	西 雅代	教育委員	岩井 弘榮
教育委員	久納 万里子	教育委員	羽田野 正史
岐南町副町長	傍島 敬隆	笠松町副町長	川部 時文
＜羽島郡二町教育委員会＞			
総務課長	石川 恵	学校教育課長	五藤 政志
社会教育課長	堀内 潤一		
＜笠松町＞			
教育文化部長	足立 篤隆	教育文化課長	赤塚 暢子
＜岐南町＞			
住民部長	堀場 康伸	生涯教育課長	堀場 紀佐子
生涯教育課主事	各務 承美		

### 2 次第

- (1) 岐南町長あいさつ・笠松町長あいさつ
- (2) 本年度の方針と重点（二町教育委員会）
- (3) 意見交換

### 3 議事

（10時30分開会）

生涯教育課長 それでは、お時間もまいりましたので、ただ今から令和4年度岐南町・笠松町総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、皆様お忙しい中、本会議にご出席いただきましてありがとうございます。本会議の司会進行を務めさせていただきます、岐南町役場生涯教育課長の堀場です。皆様方のご協力により円滑に会議進行ができますよう努めさせていただきますので、よろしく願いいたします。これより、着座にて進行をさせていただきます。皆様のご紹介は、出席者名簿と名札にて代えさせていただきます。また、写真撮影をさせていただきますことと、議事録作

成のため、ボイスレコーダーにて録音しますことをご了承願います。それでは、はじめに幹事町町長であります小島岐南町長がご挨拶をもうしあげます。

岐南町長　こんにちは。今日の総合教育会議について、個人的に、教育においては優しい子や人への思いやりがある子を育ててほしいと思っております。私が子どもの頃は、人のためになれ、人のために尽くせと言われてきました。人を助けるときは身を挺して助けろ、という教えでした。それはそれとして、子どもたちには、人の心が分かる、思いやりがある心を育ててほしいと思います。授業に関しては、やはり自分の目的・希望がある人たちに対して、その背中を押すことのできるような教育を目指してほしいと思います。いろいろありますが、特色のある教育をしてほしいと思います。そんな思いがありますので、今日の教育会議を活かしていただければと思います。町長会でもいろんな議題を取り上げておりますが、笠松町とも仲良くやっている中で、一番身近なことは羽栗グラウンドについて、南半分が笠松町の土地だったものを、8月1日に岐南町が買うことにしました。また、プールについて、何か使い方があるのではないかということで、二町で温水プールを作ってはどうかと、それについては課題がありますが、年中稼働できますので、夏だけでなく冬も入れる方が良いのではないかということも含めて、笠松町と協議をしながらやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

生涯教育課長　ありがとうございます。続きまして、古田笠松町長からご挨拶をいただきます。

笠松町長　改めまして、おはようございます。お忙しい中お集りいただきましてありがとうございます。また、小島町長からお話がありましたように、羽島郡二町教育委員会は全国でも数少なく、おそらくここだけだと思いますが、自治体を跨いでの教育委員会の設置をしております。これからも、仲良く一緒になってやっていきたいと思っております。そうした中、岐南町には羽栗グラウンドを購入いただき誠にありがとうございます。またプールの話についても、いろいろとご提言いただいております。今は学校のプールはほとんど活用されておりましたが、昔は暑い時期、夏休みにはプールへ泳ぎに行く、涼みに行くという子どもも多かったのですが、今は暑すぎるとプールに入れないという難しい時代になりました。これは羽島郡だけの問題ではなく、全国的な問題になると思います。こうした中、財政的な問題やどこに作るといった問題等、いろいろと課題はありますが、先駆的な試みとして、いろいろな調査・

研究はしていいのではないかと思います。また皆さんからもいろいろなアイデア、ご提言をお願いしたいと思います。そして、コロナが相も変わらず続いております。これで2年が過ぎまして、学校現場は本当に大変ご苦労されていると思います。こうした中で、少しずつ学校の方でも日常を取り戻すといいますか、今日の新聞でも載っておりましたが、体育や部活ではマスク無しでもいいという話も出ておりますし、修学旅行や運動会も、今まで通りとはいきませんが、少しずつ子どもたちに思い出作りやいろんな経験をさせる、そういった機会が増えてきたのは本当に良かったと思います。ただ一つ言えることは、よしんばコロナが収まっても、元の社会は戻ってこないということは確実だと思います。加えてロシアによる軍事侵攻、これは21世紀とは思えない蛮行が繰り返されていますが、疫病と戦争というある意味世紀末的な状況であります。おそらく我々は、今を生きることで精いっぱいなかなか客観的には見られないと思いますが、10年後20年後を振り返ったときに、おそらくこの年が時代の変革の大きな転換期になるのではないかと思います。それは歴史家が批評をしたり、後世でいろいろと言われると思いますが、だからこそ今のうちに教育というものを時代に即したものにしたいと思います。これからの時代はまさしく激動の時代であり、今までの常識や仕組みが通用しなくなります。こうした中で子ども達に必要なのは、私は生きる力、人間力だと思います。この荒波の中を自分らしく生きていくのに何が必要なのか、これは学校教育だけでなく、家庭教育、あるいは地域でしっかりと子どもたちを強く逞しくしていく、それが早晚地域に還元されて、羽島郡全体の発展や、あるいは後に続く子ども達が希望や夢を語るそういった土壌づくりになるのではないかと、私自身は信じております。また、短期的な目先の課題はもちろんですが、10年20年を見据えた人づくり、そういったものを視野に入れて教育を進めていく、そういった地域であってほしいと願っておりますので、また皆さま方からのご協力・ご鞭撻をお願い申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

生涯教育  
課長 「それでは、本日の議題に入らせていただきます。本日は、『本年度の方針と重点』について二町教育委員会から説明をしていただきます。はじめに羽島郡二町教育委員会 野原教育長、次に学校教育課 五藤課長、社会教育課 堀内課長の順に説明をお願いいたします。

(資料説明略)

生涯教育 課長 教育委員会からの説明や現在の教育について、ご意見を伺いたいと思います。教育委員の皆様から順にご意見をお伺いしていきたいと思います。西委員さんいかがでしょうか。

西教育委員 教育委員会の西雅代です。よろしくお願いいたします。コロナの規制も徐々に緩和されて、運動会や修学旅行も再開されつつあります。やはり子ども達にはいろいろな経験をさせてあげたいと思っております。でも、コロナによって新たに取り入れられたこと、タブレットによるリモート授業であったり、保護者向けの連絡網「すぐる」など、対面とリモートと両者良い点を取り入れてより良い学校づくりをしていただけたらと思っております。先ほど、笠松町長が仰っていた通り、まだまだコロナも続きますし、ロシアのウクライナ侵攻でまだまだ不安なことがいっぱいあります。そんな中、今後必要なのは、人間力だと私も思っておりますので、子ども達には夢と自信、自己肯定感を育てる体験や教育を望んでおります。その一例として、今年度、聖徳大学の学生との放課後英語教室というものがありました、娘が楽しそうと応募させていただきました。これも応募がいっぱいあったのか、抽選になったとのことで、そういったものを皆望んでいるということを実感しましたし、今後外国語は今以上に必要になってくると思いますので、英語に限らずスポーツやボランティア、地域の活動など、いろいろな体験のヒントを出してあげることで、子ども達は夢や自信を育てて行けるのではないかと考えていますので、二町としても、今後もこういった活動に力を入れていってほしいなと思っております。

生涯教育 課長 ありがとうございます。岩井委員さんいかがでしょうか。

岩井委員 教育委員の岩井です。あっという間に15年間教育委員として、羽島郡二町の教育をずっと見て参りました。先ほどからいろいろな話がありまして、また両町長からは人づくりの話がありました。そんな中で私がつくづく思っていることを述べさせていただきたいと思います。確かに、教育や人づくりの中核部分を担うのはやはり学校教育だろうということは言持たないと私は思います。ただ、それだけでいいのかとつくづく思っているわけでありまして。私は、人が育つというのは、本人の資質ややる気といった個人に属するようなことだと思っております。それを助ける教育の仕組み・手立て・手段、そういうものと合わせてやはり学ぼうとする雰囲気、あるいは子どもを育てようとする環境、こういった本人を取りまく環境面がすぐ

く大きいと思います。ここ15年見て参りまして、確かに教育に関する手立てに関しては、両町長大変ご配慮がありまして、大分レベルアップをしてきたと思います。先ほどから家庭教育という話がたくさん出てきていますが、私が一番気になっているのは、家庭の子ども達をめぐる環境の格差がすごく大きくなっているのではないかとことです。ここにどうしてもメスを入れないといけない、それはこういった教育の場だけでなく、福祉部局も含めて一緒になってやっていかなきゃいけないのではないかと、両町の教育と福祉の部局は今まで以上にそういうことを連携してやっていかないと、底上げはなかなか難しいのではないかと思います。国の方の子ども庁の動き等もありますが、そういったことがこれからますます必要になるのではないかと思います。言葉で家庭教育が大事だということは簡単に言えますが、それを突き詰めてどうするかということになると、家庭にそういった雰囲気のない人たちに学びをどこかで提供する場をもっと充実する必要があるのではないかと思います。それは教育部局だけの話ではないと思います。本当にいろいろとご尽力いただいている中でまた大変なおねだりをするような話になってしまいましたが、是非ともそんな視点をお持ちいただいて、ご対応いただければと思います。

生涯教育  
課長

ありがとうございました。久納委員さんよろしく願いいたします。

久納委員

教育委員の久納と申します。いつもいろいろとありがとうございます。私は教育委員にならせていただいてから、人権についていろいろと相談を受けたり、自分が関わるが多かったものでいろいろ見てきましたが、先生方や町のご理解をいただいて、人権や多様性を認めるところについて、ハードやソフトの面について皆さんの意識も高まってきておりますし、ハードの面でもいろいろ配慮したものが整って、ありがたいと思っております。笠松町でいえばここ数年以内には、制服に関しても自由に選べるような方向で生徒たちの意見を聞きながら進んでおりますのでそれもいいことだと思っております。一方で、多様性という言葉を言えば何でも許される場所があって、その言葉が独り歩きして違う意味で多様性を認めもらうためにこうしてもらわなきゃいけない、ああしてもらわなきゃいけないという無理難題やわがままな意見もちらほらある気がします。先ほど小島町長がおっしゃったように、他の人への思いやりは大事だと思いますし、自分の意見だけじゃなくて、自分はこうだけれどほかの人のことも考えてという意見を、皆で考えていけるようなことは忘れてはいけないと思いま

すし、目の前のこと、今これが必要だから今すぐやってくれという意見に対応することも大事ですが、古田町長もおっしゃったように、今後のことを考えると、生き抜く力、今ここで我慢して耐える力をつけていくことも大事だと思うので、学校現場でもいろんなプログラムが用意されていると思いますが、町でも用意して、経験を豊かにして、人への思いやり、自分が我慢して生き抜く力を身に着けるようなプログラムをたくさん用意していただけるとありがたいと思っています。

生涯教育 ありがとうございます。羽田野委員さんよろしくお願いたします。  
課長

羽田野委員 教育委員の羽田野と申します。よろしくお願いたします。私は教育委員一年目でまだ一年経っていない状況ですけれども、元々高校の教員をしていて、高校のことはわかっていたのですが、小中学校の現場のことはわからない状況でいろいろ視察をさせていただきまして、自分の小学校の頃と比べると随分変わっており、両町長のおかげで岐南町・笠松町違った状況でも頑張っているということを実感しました。その中で、教員としてみたときに、教員の数がギリギリで、授業をたくさん持たないと回っていかないという状況が生まれているということですが、そういう状況ですと働き方改革をやられても実際には非常に負担が多いと、そして部活動もかなり負担になっていると感じました。これらは今後変わっていく、教員やスタッフも増員させていただくということで、教員にとっては一番ありがたいことではないかと思っておりますので、ぜひ今後ともお願いできればと思います。それとスポーツについてもお話ししたいのですが、部活動について、日本スポーツの中学校・高校の状況は、学校の部活動でやっていくのが中心でしたので、我々の中で令和5年から新しい部活動をやると、子どもたちにとってスポーツの有効性ははっきりしているので、先ほどから言われていますように、生きる力を、スポーツを通じて身に着けていけるのではないかと思います。特に柔道は小学校の総合体育で取り上げるようになったということで、競技性のあるものばかりだとスポーツ嫌いになってしまいますが、競技力の向上とスポーツの楽しさを味わうことができます。また指導者についても、日本の場合はだれでも経験者が指導するような形でやってきましたが、そうではなく指導できるだけの能力がある人に指導してもらおうという形に変わりつつあるので、私も期待しております。スポーツの世界も変わって行って、岐南町も笠松町もスポーツが盛んで子どもたちが頑張っているし、子どもだけでなく生涯スポー

ツをやれる健康づくりが大事ですので、生涯教育という観点で大いにスポーツをできる環境を行政として作っていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

生涯教育課長 ありがとうございます。それでは、小島岐南町長、よろしくお願いいたします。

岐南町長 今までの話を聞いておまして、岩井委員の家庭教育について、場所づくりが出来ない家庭教育について、これをもっと充実してほしいと思っています。学校の先生には難しいかもしれませんが、私どもが子どもの頃は、家でお手伝いをしろとよく言われました。それに対し親はありがとう、よくやってくれたね声をかけると、子どもの自立心・協調性、満足感が得られます。若い人に聞くと、子どもには何もさせなかったという人もおりますが、その子どもたちが果たして協調性があるかといわれると、わがままに育てている、人への思いやりがないという人を多く見受けます。どういう家庭格差があっても、大事なことは自分の家で子どもに何かをやらせてみる、勉強も大事なのですが、お手伝いを一つでもさせる、これが重要ではないかと思っています。久納委員や西委員のお話も聞いて、羽田野委員はスポーツのことでしたが、やはりそこに行きつくのではないかと思います。家庭の教育が大事、一日一回、一日一善ではないですが、一回でもいいことをさせる、子どもに満足感を与え、そこには協調性も出てくると思うのです。そして家庭教育が上手くいってないと、やはり先生の方から一日一回でも家庭のお手伝いをするようにとってもらえればいいのではないかと思います。親が言うとなかなかやらないとなりますが、先生が言えばやるのではないかと、私どもが子どもの頃も先生から、お手伝いをしろ、一回でもいいので何かお手伝いをしろとよく言われていました。親の気持ちや大変さもわかりますので、そこのところを実体験すれば、子どもの心も変わってくるのではと思います。そういうことも視野に含めて、家庭教育という問題になったときには、うちに帰ったら一つでもいいのでお手伝いをするということをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

生涯教育課長 ありがとうございます。古田笠松町長、よろしくお願いいたします。

笠松町長 いろいろなご意見ありがとうございました。小島町長もおっしゃっていま

したが、学校現場の先生方は子ども達よりも親への対応に苦慮されているのではないかと思います。久納委員が言われたように、多様性という意見は大事ですが、多様性をはき違えて百家争鳴言いたいことを言えばいい、義務よりも権利が先立つそういった風潮が今の日本全体に広がっていると思います。ただ背景は何かというと、皆さん子どものことは一生懸命分析されていますが、親世代について、それぞれのケースでは関わっていますが、全体としてどういった親の世代かという分析をされる機会がないのではと思います。私自身はバブル世代で、イケイケどンドンやりたいことをたくさんやった世代であります。今の小学校・中学校の親世代というのはバブルが崩壊してちょうど失われた10年、就職氷河期を青春時代に、就職され結婚された世代だと思います。おそらく苦しい思いをしていて、私のときは就職活動で出せばすぐ内定でするような時代でしたが、氷河期はまさしく100社受けても出ず打ちのめされた、親自身も自己肯定感が得られなかった経験が多いのではないかと思います。そうした中どうということが起きるかということ、外向きのベクトルより内向きのベクトルになってしまう、その一つの要因がPTA活動や子ども会活動に積極的な人もいれば全くそうではないといった人たちもおり、あるいは子どもに対しても無茶苦茶濃密な意見、語弊があるかもしれませんが、成人式も親が来て、今年はコロナで入場はできなかったのですが、外で入れる・入れないで揉めるくらい濃密な親がいれば、ネグレクトあるいはヤングケアラーのような問題がある、その辺の向き合い方、一種の人間関係の距離の取り方に非常に困っている人が多い、当然それが子ども達にも波及していて、いろんな教育の場面や学校の中で出ているのではないかと思います。子は親の鏡といいますが、そういったことが学校現場において課題の一つになっているのではないかと思います。なので、子ども達に向き合っていただくことは学校の責務でありますし、我々行政としましてもこれは重要な課題として位置付けていますが、もう一步、保護者の皆さんを巻き込む方法というのを考えていかなければいけない、例えば講座でも、一方的にPTAでやるのではなく、子どもの向き合い方で困っている、人間関係で困っている人たち向けにアドラーやシュタイナーといった教育哲学や心理学のようなものを講座で先生を呼んで、子どものへの向き合い方はもちろん親同士の向き合い方、そういったものが解消されれば、少しでも学校に対する関わり方も変わってきて多少なりとも今まであまり非協力的だったご家庭も少しは先生の声に耳を傾けてくれたり、PTAの役員にも手を挙げていただける、もしかしたら希望的観測かもしれませんが、そういった取り組みも羽島郡二町だからこそできる、地域が特に笠松町の場合は古く密着してい

ますので、そういったこともできるのではないかという風に思っておりますので、可能性を探っていただいて、積極的に新しい試みをして、子どもだけではなく親・保護者・家庭・地域を巻き込んだ取り組みがこれからの時代必要ではないかという風に感じております。

生涯教育  
課長            ありがとうございます。ほかにご意見等はございますか。  
                  いろいろなご意見をいただき本当にありがとうございました。これをもちまして、令和4年度岐南町・笠松町 総合教育会議を閉会させていただきます。本日の会議の議事録につきましては、事務局で作成しまして、ホームページにて公表する予定でございます。本日は、皆様方には、お忙しい中ご出席いただき、本当にありがとうございました。

以上